

弥富市地域公共交通計画の見直しについて

1-1 見直し状況

- ・ 今年度と来年度の2年間で現行計画を見直す、今年度は主に弥富市の現状整理と公共交通における課題の整理をおこなった。
- ・ 現況整理について具体的には、人口や施設の立地状況、公共交通の利用状況等のデータによる現況整理のほか、住民・きんちゃんバス利用者の利用状況や今後の利用意向等をアンケート調査と利用者乗降調査で把握した。

表：現況整理項目

現況整理項目		内容
地域の概況	人口動向	・ 人口（市全体、小学校区別、年齢別） ・ 世帯数（市全体） ・ 通勤・通学による人口流動
	主要施設の立地状況	・ 医療施設 ・ 教育施設 ・ 商業施設 ・ 福祉施設 ・ 行政施設
	移動状況	・ 市内・市外の移動 ・ 携帯位置情報からわかる移動状況
公共交通の状況	公共交通網	・ 公共交通網と人口の分布
	鉄道の状況	・ 運行本数 ・ 乗車人員 ・ 駅端末交通手段
	路線バスの状況	
	きんちゃんバスの状況	・ 利用者数 ・ 収支 ・ バス停乗降車数調査結果 ・ 利用者アンケート調査結果
	その他バス関連事業	・ 計3回の南部地域社会実験運行の概要と結果
	タクシーの状況	・ タクシー事業者の状況 ・ 福祉タクシー料金助成事業
住民意向	住民アンケート調査結果	・ 調査概要と結果
	住民意見交換会	・ 開催概要と結果
上位・関連計画	県計画	・ あいちビジョン2030 ・ あいち交通ビジョン ・ 愛知県地域公共交通計画 等
	市計画	・ 第2次弥富市総合計画工期基本計画 ・ 弥富市都市計画マスタープラン ・ 弥富市立地適正化計画 ・ 弥富市総合交通戦略 等

- ・ 上記の項目について現況整理を行い、弥富市の問題点・課題を整理した。

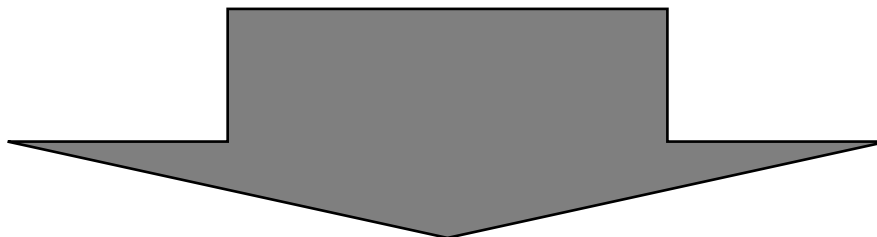
1-2 弥富市の現況と問題・課題

- ・ 弥富市の現況と問題点・課題は以下のとおりである。

表：現況まとめ

① 人口	● 少子高齢化が進んでおり、将来人口は減少傾向で、高齢者割合は増加予測
② 主要施設	● 海南病院や偕行会リハビリテーション病院のほか、近鉄弥富駅付近から佐古木駅付近までの一般国道1号の南側に診療所など個人病院が多く立地 ● 小学校、中学校のほか、2つの高校が立地 ● 商業施設は市中心部に多くが立地し南部地域や東部地域には非常に少ない ● 温浴設備のある福祉施設として、総合福祉センター、いこいの里、十四山総合福祉センターが立地 ● 市役所のほか、南部地域に鍋田支所、東部地域に十四山支所が立地
③ 移動状況	● 市内移動は弥富駅や市役所が立地する中心ゾーン関連の移動が多く、移動手段の多くが自動車 ● 市内移動は「自由」目的、市外との移動では「出勤」目的が多い ● 外出率は年齢が上がるほど低下し、免許のない方の外出率が特に低い ● 名古屋市との移動で鉄道が多いが、その他の都市には自動車が多い ● 近鉄弥富駅などの交通施設は朝夕の利用が多く、イオンタウン弥富などの生活施設は日中の利用が多い
④ 公共交通網	● 鉄道が3路線で4つの駅が立地し、路線バスが2路線、きんちゃんバスが3路線運行 ● 市内や市周辺部で愛西市巡回バス、飛島公共交通バス、木曾岬町自主運行バスが運行 ● 人口カバー率は86%、65歳以上は85%で、東部地域や南部地域でカバーされていないエリアが多い ● 隣接自治体が運行するコミュニティバスでカバーされているエリアもある
⑤ 鉄道	● 運行本数は近鉄弥富駅が最も多く、利用者も多い ● JR・名鉄弥富駅を利用する場合は近鉄弥富駅南口バス停から駅舎内を通り抜ける必要がある ● JR・名鉄弥富駅では自由通路・橋上駅舎化事業にあわせた北口駅前広場の整備検討が進められている
⑥ 路線バス	● 比較的長距離路線が運行し、運行本数は1日に0～1便と非常に少ない
きんちゃんバス ⑦ 利用状況	● 運行に使用している車両はノンステップバスが南部で2台、マイクロバスが北部、東部で3台（北部で2台、東部で1台）、予備車両が1台 ● 南部ルートの利用者数は増加傾向にある ● 1便当たり平均乗車人員は、南部ルートで増加傾向となっており、南部ルートは令和5年度に10人/便を超えている ● 市内88箇所のバス停のうち、「近鉄弥富駅南口」であり、続いて「イオンタウン」「弥富市役所」「杉本クリニック」「佐古木駅」の利用が多く、年間乗車人員が100人に満たないバス停も複数あり、「愛知黎明高校」は乗車人数が増加傾向にある ● 北部ルートは昼前後の利用が増加、東部ルートは午前中から午後の早い時間帯の便の利用が多く、北部・東部ルート共に夕方の便の利用者が少ない。南部ルートも午前中の利用が多くなっているが、午後にかけての便でも利用者が増加している。令和5年度以降は平日17時台の便(平日12便)の利用が増えている。 ● 「杉本クリニック」から「近鉄弥富駅南口」への利用が多い ● 「近鉄弥富駅南口」の乗降者数が最も多い、駅や商業施設、医療・福祉施設など日常生活上での利用による乗降者数が多くみられる
⑧ 収支	● 令和5年度の運行経費・収入ともに平成30年度から増加。収支率は、一時約4%まで落ち込んだものの、令和5年度で5.2%と改善 ● 利用者1人当たりの運行経費は人件費等の上昇により増加傾向にあり、利用者1人当たりの運行経費は令和5年度で1,229円となっている ● 市の実質負担額は、平成30年度以降増加しており、令和5年度で約8.8千万円となっている

⑨周知・利用促進策	● 無料バスカードの配布やシルバーパスなど高齢者の料金負担の軽減のほか、サイクル&バスライド駐輪場の設置、多様な媒体を活用した情報提供、講演会の開催など周知・利用促進策を展開 ● R5.4にコミュニティバス運賃助成定期券交付事業の開始。R5.10の運賃改定で小中学生の運賃が無料 ● 平成23年度から無料お試し乗車券の配布を継続的に実施し、毎年80人程度の新規利用者を獲得
⑩乗り継ぎ	● 鉄道との乗り継ぎが最も多く、きんちゃんバス相互の乗り継ぎ利用は見られるが、飛島公共交通バスなど他自治体が運行するバスとの乗り継ぎ利用は少ない ● 飛島公共交通バス蟹江線とはダイヤ調整を図っているが、木曽岬町自主運行バスとは調整していない。また、近鉄弥富駅における木曽岬町自主運行バスとの乗り継ぎには駅舎内を通り抜ける必要がある
⑪利用評価	● 利用者の約7割は高齢者で、利用目的は「買い物」「通院」「公共施設への用事・利用」が多い ● 満足度では72.6%と高い結果となっている ● 項目別では「運行本数」については満足度最も低く、「運賃」が最も満足度が高い ● 項目別では「運転手の対応」を重要と考える利用者が多く、「他のバスとの乗り継ぎダイヤ」については一番重要度が低い ● 満足度が低く、重要度が高い項目では『運行ルート・所要時間』『運行本数』『運行している曜日』の運行に関する項目が上がっている等、運行に関して望む声が多い
⑫タクシー	● 愛知県の輸送実績は、車両数や実働率、実車kmなどすべての項目で新型コロナウイルスの影響により令和2年度から減少となっていたが、徐々に回復傾向となっている ● 障がい者や高齢者など移動に制約のある方を対象に福祉タクシー料金助成事業を実施しているが、扶助額は増加傾向となっているが、買い物など日常生活を支えるには不十分
⑬住民意向	● 外出手段は車(自分で運転)が多く、公共交通までの移動手段は徒歩が多い ● きんちゃんバスを利用していない人は多く、利用しない理由は「自分で車やバイクを運転できる」が最も多い ● 行ってみたい施設は「イオンタウン弥富」、次いで「近鉄弥富駅」「弥富市役所」「JA愛知厚生連海南病院」が多い ● 「運行本数」を重要と考える人が多く、次いで「運行ルート・所要時間」と運行に関する項目が上がっている等、運行に関して望む声が多い ● 運転免許保有者は多く、返納する予定は70歳を超えてからと考えている人がほとんどであり、「将来、車などを利用できなくなった場合の重要な交通手段」と感じている人は多い ● きんちゃんバスについて運行の時間帯、運行ルートの長さ等運行に関する意見が上がった ● デマンド交通に関して利用したい人は全体の半数以上。利用したい理由は「自分で乗車したい時間を指定できるから」が最も多い反面、利用したくない理由として、「行き帰りの予約が手間だから」が最も多くなった ● デマンド交通に関して予約のシステムへの不安、停留所までの距離に関する意見が上がった
⑭上位・関連計画	● 第2次弥富市総合計画後期基本計画の将来像 【地域でつくる「人・自然・文化」の調和 輝く未来へ繋ぐまち・弥富】 ● 弥富市デジタル田園都市構想総合戦略の将来ビジョン 【多様な暮らしを支える”ひと”中心の持続可能なまち】 ● 現行の地域公共交通網形成計画の目標は、利用者数の維持・増加では南部ルートが目標を上回った



A：高齢者も使いやすい生活交通サービスの確保・維持を図ることが必要

【現況①③④⑨⑪⑬】

- 今後の高齢化社会の進展や運転免許返納者の増加に対応するため、高齢者が安心安全に移動でき、気軽に外出できるような環境を形成するため、高齢者も使いやすい生活交通サービスの確保・維持を図ることが必要
- 高齢者が1人でも公共交通を利用して気軽に外出ができるよう、誰もが使いやすい公共交通体系の構築と分かりやすい周知が必要

B：公共交通空白地や人口減少、社会情勢の変化に対応した生活交通サービスの確保・維持を図ることが必要

【現況①③④⑧】

- 定住者を確保し人口の減少を穏やかにするため、利便性の高い生活交通サービスの確保・維持を図ることが必要
- バス停から離れている公共交通空白地などに住んでいる方々に対しても持続可能で効率的な生活交通サービスの提供が必要
- 少子高齢化や人口減少、社会情勢の変化によって公共交通の担い手が不足する渦中で生活交通サービスを確保・維持するため、地域の交通資源の総動員や先端技術の活用を踏まえた公共交通体系の検討が必要である

C：公共交通相互の乗り継ぎなどさらなる連携強化が必要【現況②③④⑤⑥⑦⑩⑫】

- 鉄道やバスなど市内を運行する公共交通を活かし、より利便性の高い地域公共交通網とするため、ダイヤや料金、待ち合い環境、ICT化の推進などにより各公共交通相互の乗り継ぎの環境の向上を図るなど、相互の連携のより一層の強化を図ることが必要
- 飛島公共交通バスや木曾岬町自主運行バスでカバーされている地域も存在することから、それら公共交通を活かし、乗り継ぎについても周辺自治体と連携することで、より利便性の高い地域公共交通網の形成が必要

D：地域の実情や需要に応じた、効率的かつ効果的な公共交通体系の再構築が必要

【現況①②③④⑤⑥⑦⑩⑪⑫⑬】

- 地域による公共交通の利用状況の違いや日常生活の目的地の違い等を踏まえ、それぞれの地域の実情や需要にあった運行形態の選択による持続可能な運行方法の確立が必要
- 現在の公共交通の利用状況や今後の高齢化・人口減少等の社会情勢の変化を見据え、見合った投入額での公共交通の運行方法の検討が必要

E：コンパクト・プラス・ネットワークの都市構造などまちの将来像実現を支えるための公共交通網の形成が必要

【現況①②③④⑬⑭】

- コンパクト・プラス・ネットワークの都市構造などまちの将来像実現を支えるために、まちづくりと連携した地域公共交通網の形成を図るとともに、地域の特性や都市機能に応じた適切な公共交通の運行方法やサービスの提供が必要

F：継続的な利用促進策の展開と情報を入手しやすい環境の形成が必要

【現況①④⑤⑦⑪⑬】

- 現在展開している利用促進策等の取組みの継続的な実施と周知のほか、公共交通の果たす役割や重要性についても啓発することが必要
- 鉄道や公共施設、商業施設、病院、観光施設などと連携したターゲットに応じた利用促進策の展開や、多様な媒体による情報を入手しやすい環境の形成を図ることが必要

G：地域で守り育てる環境の構築と意識の醸成が必要

【現況①⑧⑬⑭】

- 持続性のある生活交通サービスの確保・維持に重要となる地域住民の利用促進やサポートの推進、商業施設や病院、企業による協力が必要
- 地域の集まりの場や協議会を活かした、存続に対する危機感等を共有する場の創出が必要

H：福祉施策との連携が必要

【現況①②③⑫⑬】

- 今後の高齢化社会の進展や運転免許返納者の増加が予想されている中、鉄道やバスなど既存の公共交通手段だけではすべての移動に対応することは困難であり、福祉タクシー料金助成事業ではカバーできていない需要もあることから、福祉施策と連携した対応が必要

1-3 今後の見直し内容とスケジュール

- ・ 今後の現行計画の見直し内容とスケジュールは以下のとおりである。
- ・ 将来像・基本方針の設定や基本方針に基づく交通施策の検討、交通施策の具体的な検討を行い、令和7年中に計画案を作成し、年明けにパブリックコメントを実施する。
- ・ 交通施策や具体的な展開策の検討の際には住民意見交換会によって住民意向を把握するとともに、交通事業者や関係主体と十分に調整・協議を行う。
- ・ パブリックコメントの実施後、意見等を計画案に反映し、第4回の協議会での審議・承認を経て新たな地域公共交通計画を策定する。

表：今後の見直し内容とスケジュール

令和7年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 将来像の設定	将来像・基本方針の検討		協議	目標・評価指標の検討			協議					
			第1回				第2回					
2. 基本方針に基づく交通施策の検討			交通施策の検討				協議					
							第2回					
3. 交通施策の具体的な展開策の検討				具体的な展開策の検討			協議	継続検討	協議			
							第2回		第3回			
4. 住民意見交換会の実施					準備・実施		報告					
							第2回					
5. パブリックコメントの実施										準備	実施	報告・策定
												第4回
6. 弥富市地域公共交通活性化協議会												
			第1回				第2回		第3回			第4回